

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900094		
法人名	極東警備保障株式会社		
事業所名	グループホーム大空 Bユニット		
所在地	旭川市永山2条21丁目2番12号		
自己評価作成日	令和3年10月	評価結果市町村受理日	令和3年12月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。
http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanri=true&JigyosyoCd=0172900094-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和 3 年 11 月 22 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念の「ゆっくり・一緒に・楽しく」を意識しながら、利用者様に日課にとらわれず自由に過ごしていただくことで本人の意思を尊重し尊厳を守り、一人ひとり自分のペースで過ごしていただける環境整備に努めている。
 関わりの部分では、日々の暮らしの中で生活リハビリが出来る様に、家事等の出来ることをお手伝いをしていただいたり、一緒にレクリエーションや行事を行い、ケアスタッフとの関わりのおかげで信頼関係を構築し、「楽しく」「笑顔で」「安心した」生活のお手伝いをさせていただける様に努めている。
 また、業務面では、日中帯業務確認表を作成し、日中帯の業務を明確化することで業務の見える化を図り、ケアスタッフの意見を取り入れながら働きやすい環境作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝理念をスタッフで読み上げたり、理念を元に毎月の個人目標を立てて、月末に個人で達成や継続を記入し管理者が確認をし、理念の共有と実践が出来る様に務めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	今はコロナ禍で皆様で一堂に集まることは出来ないが、2カ月に1回の運営推進会議は、書面開催で行い各個人とは意見の交換や情報の共有を行い書面で意見等をまとめている。また、地域包括と定例会等の集まりにもリモートでの出席をし、地域との繋がりが保てる様に努めている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、「町内会の方」「民生委員」「地域包括」の方に、施設での認知症の人への対応を伝えていたが、2項でも挙げているがコロナ禍で、皆様コロナの情報が欲しいと話されていて、コロナの理解がメインとなっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者数や行事等の取り組み内容は、書面にて通達し、配布時に各個人に口頭でも伝えている。お互いの情報交換はコロナの情報に偏っているが、感染対策の情報の共有で、施設では感染者なく運営し、地域の方は安全に過ごせる様に意見の交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括の主催する会議等に、リモートで参加するようにし、定例会では各施設の取り組みについて話し合ったり、感染対策の共有を図り、協力関係が築ける様に取り組んでいる		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化虐待防止対策検討委員会を通じて、身体拘束に繋がらないために、認知症に対する理解や介助方法の理解を深め、身体拘束をしないことを前提にし、より良い介護を目指すことを目標に取り組んでいる。また、常時の鍵の開錠は難しく、玄関横には鍵を設置する対応を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束適正化虐待防止対策検討委員会を通じて、認知症の理解や、周辺症状への適切なアプローチや、アンガーマネジメントを勉強し、虐待に結びつかないケアの実践が出来る様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	一人ひとりが、その人らしく自由に暮らせ、個人の意思を尊重できるようなケアができるよう、知識を深めるため、内部研修の実施を行いスタッフ全員が理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	規約時に、本人や家族への利用契約や重要説明の説明を十分に行い、その都度質問があれば回答し、本人と家族が納得されたうえでの入居となっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とのより良い関係が築けるように努め、ご家族が意見を言いやすい環境作りをおこなっている。もし苦情が入った時は迅速に対応し、解決出来る様な体制は整えている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りでの利用者様の状態の報告やモニタリング時のスタッフの意見の反映させながらスキルアップに努めている。また、業務内容の改善があれば、その都度検討し話し合い変更している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務分担表を作り、業務内容を明確にすることで、労働時間を守れるよう努め、向上心を持てるように毎月の会議で何かしらの勉強ができるよう議題を挙げている。また、年に1回の査定で個人評価をし、次年度の給与に反映出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフのリモートでの研修参加の促進や、内部研修でのスキルアップの機会を作り、必要があれば仕事中の介護技術の指導も行き、日々スタッフが成長していける環境作りを努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	前年度と今年度は、いつもより外部との交流の機会は減っていて、今年度からはリモートでの外部研修が充実してきたので、リモートでの交流の機会を設けるように、リモート研修の促進を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人やご家族から聞いた情報を、スタッフに周知させたり、ご本人との関わりの中で情報を引き出し、全スタッフで情報を共有することで、ご本人が安心して楽しく暮らせる様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とは、入所前からご本人が「どのように暮らしていきたいのか」「どのような支援を望むのか」を話し合い要望を聞き、出来ることと出来ないことの見極めをし、より良いケアを目指すことでご家族との関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の前に、ご本人やご家族からの意見を反映させながらサービス提供を開始し、その後もケアプランの定期的な変更をしながら、ご本人やご家族の要望に答えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が、過ごしやすく楽しく暮らしていくということを前に考え、認知症の人ではなく一人の人として接することで、ご利用者様と信頼関係を築いていけるということをスタッフに伝え実践するよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今は施設内に入つての面会は出来ず、シート越しでの短時間の面会をしているので、その際に何か要望があれば聞き取るようにしている。また、少しでも普段の生活の様子が分かるように、毎月ご家族に行事の写真を送っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今はコロナ禍で、以前のように来訪者を施設内に受け入れることは出来ないが、19項で述べた様にシート越しでの短時間の面会は行っている。しかし、旭川近郊の方以外はコロナ感染を避ける為お断りしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自身の意思に合わせて、話しが好きな方は気の合う人との関係性が出来る様にスタッフも介入し支援している。また、レクやラジオ体操を通じて利用者様同士がお互いに関りが持てる様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族から相談があった場合には真摯に対応し、出来る限りのフォローが出来る様に努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人より何か訴えがあった時は直ぐに対応し、出来るだけ意向に添える様に働きかけている。また、意思の疎通が困難な方には、ご本人が何を求めているのかを全スタッフで情報収集し、評価しながら対応するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族やご本人より情報を収集し、居住スペースになじみの物を設置し生活環境を整えている。以前にサービス利用のある方には、今までの経緯を把握しサービスの継続又は追加を検討しサービス提供ができるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に過去の「職業」「趣味」「好きな事・物」「性格」等を聞く事で、自分にあったライフスタイルが確立出来る様に努め、出来る事の見極めをしADLの低下が無く出来るだけ維持出来る様に取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時は、ご本人やご家族からの意向に基づきケアプランの作成を行い、その後は日々ケアにあたるスタッフの意見や、ご家族の意向を反映させながら、ケアプランを変更(半年に1回)し、ご家族にも提示し、ご本人に適したケアが出来る様に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った毎日のケアやケース記録の記入をし、月に1回のカンファレンスで、特変事項の必要なケアの検討を行い、スタッフ間での情報の共有をし、半年に1回のモニタリングに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズへの対応は、一人ひとりの訴えを出来る限り受け止めサービス内容として反映し、日々のケアに繋げられる様に取り組んでいる。また、日々のケアはケアプランにない内容でも必要があれば柔軟に対応し支援に繋げている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は、毎年夏に行う町内の子供達との花火大会や、ボランティアの方の来訪や外出レク等を行っていたが、コロナ禍の為活動は何も出来ていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは良好な関係を築いていて、急変時には直ぐに受診をもらい、夜間でも急変時には迅速に対応していただいている。また、週に1回のラウンドと月に1回の受診で、健康状態の管理もしていて、ご本人やご家族も受診には同意されている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中帯は、体調変化が見られれば、管理者が報告を受け、提携病院に連絡し指示を仰いでいる。夜間帯の体調変化は、スタッフが直接提携病院に指示を仰ぎ対応している。いずれの場合も急変時には管理者に報告し、管理者と医師の判断の下、救急搬送を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、医師や看護師に定期的に情報の提示を求めていて、ご家族に情報が入った場合も、施設に連絡をしてもらえる様に話している。3カ月は部屋を開けて退院時の受け入れ体制は整えていて、退院の時期は医師と相談をしながら、退院後の施設での受け入れが可能な話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入所時に、ご本人やご家族には看取りは出来ないことを話して、看取りのギリギリまでは提携病院と連携しながら、可能な限り施設で暮らせる様に努めると話しをしている。また、延命の有無も入所時に聞き、ご本人やご家族の意向に添える様に体制を整えている。またこの情報はスタッフも周知するよう伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設での内部研修での各急変時の対応の指導を行っている、緊急時対応マニュアルも作成しスタッフが周知出来る様努めている。また、年に1回避難訓練で消防からのAEDの指導をうけ、施設内にはAEDを設置している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画と非常災害対策計画を作成し、全スタッフが周知出来る様に取り組んでいる。年に2回の避難訓練と、年に1回の災害の訓練も行い、体制を整えるよう努めている。地域の方には運営推進会議での災害時の協力体制を取りたいと話し、連携の体制が構築出来る様に取り組んでいる。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフには、利用者様を認知症の人として見るのではなく、一人の人として接するよう指導している。「トイレ」「排泄」「入浴」は、特に配慮するようにと話し、声掛けは、気付かずに不適切な表現があったりするので、その都度お互いが注意出来るような環境作りに努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の人は、直ぐに言葉が出ないことが多いので、ゆっくりと発言を待つようにし、スタッフの声掛けで言葉の誘導をしないように取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入浴は、なかなかご本人の希望に添った形での提供は出来ていないが、起床や臥床やレクの参加の有無は本人の意向に合わせている。また、人との繋がりを好まない人には、無理な介入はしない等その人に合わせた支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは、朝のケア時に整え、自分で着替えたりすることが出来ない人も多いので、汚れがあれば朝には服は更衣している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今は、準備や片付けを一緒に出来る利用者様はおらず、食事中に無言で食べることがないように、スタッフが声掛けをしながら楽しく食事できるように取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の「水分量」「食事量」の記録し把握していて、食事形態をご本人の状態に合わせた形態での提供をし、必要時は嗜好品の提供や、医師の指示の元、栄養補助のドリンクを使い、栄養バランスがとれ口からの摂取が継続出来る様に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけご自分で出来る様に支援は行いが、仕上げは介助で行い口腔内の清潔保持に努め、義歯の衛生面の管理も行っている。しかし、認知が強く拒否が強い人もおり、介助ができなく口腔ケアが行えない時もある。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易にオムツやパットを使用しないように努めていて、声掛けや時間でのトイレ誘導、排泄時の促しでの排尿をし、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	基準値の水分量を摂取をし、ラジオ体操やレクを行い体も動かし、便秘がないように取り組んではいるが、なかなか毎日の排便には繋がらず、医師との連携で定期的の下剤を使用し排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴を行うことは、受診の関係もあり困難だが、決められた入浴日の時間内での時間の融通はきかせれるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜に時間だから早く寝よう声掛けをしたり、朝は本人が眠ければ、無理に起こしたりはしないようにし、日中も好きな時に寝て好きな時に起きていただき、本人の意思に合わせて自由に生活をしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフは薬の用途までの理解はしていないが、管理者は必要な部分の薬の把握はしている。内服のリストはあるので誰でも直ぐに確認出来る環境は整えていて、薬の変更時は必ず全スタッフに周知し、特変があれば直ぐに報告するように徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割が出来る利用者様は今は居ないが、希望があれば嗜好品の購入をし希望時に提供している。また、独自の新聞を読まれる方がいてご家族より定期的に頂きご本人に渡している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は、外出レクや近所を車椅子で散歩をしたり支援を行っていたが、コロナ禍と夏場の異常な気温の上昇もあり外出支援は出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在、お金を適切に使える利用者様はいなく、認知症対応の施設なので、紛失の恐れもあり金銭は手元には置いていない。受診時に希望があれば売店などでお金はスタッフが払い物を買う支援は行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいと訴えがあれば、電話を繋ぎ話しをしていただいている。また家族より変わって欲しいと頼まればご本人に変わっての対応を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレには表示を付けて迷わないようにし、居室には名前を付けて自分の部屋だと分かるにしている。また、季節毎の飾りつけをし季節感が分かるようにしたり、行事の写真や壁に貼り楽しかった出来事が思い出せるような工夫を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食道の椅子に座って飲み物を飲んだり、ダイニングでソファに座りテレビを観たり、空間は広いのでソファが何種類もあり、一人で過ごせる環境も整えている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご本人やご家族に、馴染みの物があると落ち着くことを必ず話し配置するようにしている。また、希望があれば居室にもテレビや冷蔵庫や椅子を配置し、居室内でも自由に過ごせる環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物を置かないようにし、物に引っかかったの転倒や、車椅子自操で物に引っかかったの怪我を避けるような工夫をしている。また、洗濯スペースなどの危険な場所には入っていけないようにさりげない工夫をしている。		